



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月のテーマ

気象業務150周年記念企画

気象庁・気象台ってどんな仕事をしているの？-Part3- — 『観測』の仕事 —

気象庁は、1875年（明治8年）に東京気象台として気象業務を開始してから、2025年（令和7年）で150年の節目を迎えました！この節目に合わせて、はれるんマガジンでは気象庁・気象台の仕事や歴史を連載でご紹介します！第3回は、天気予報や防災気象情報を支える福岡管区気象台での『観測』に関する仕事をご紹介します。

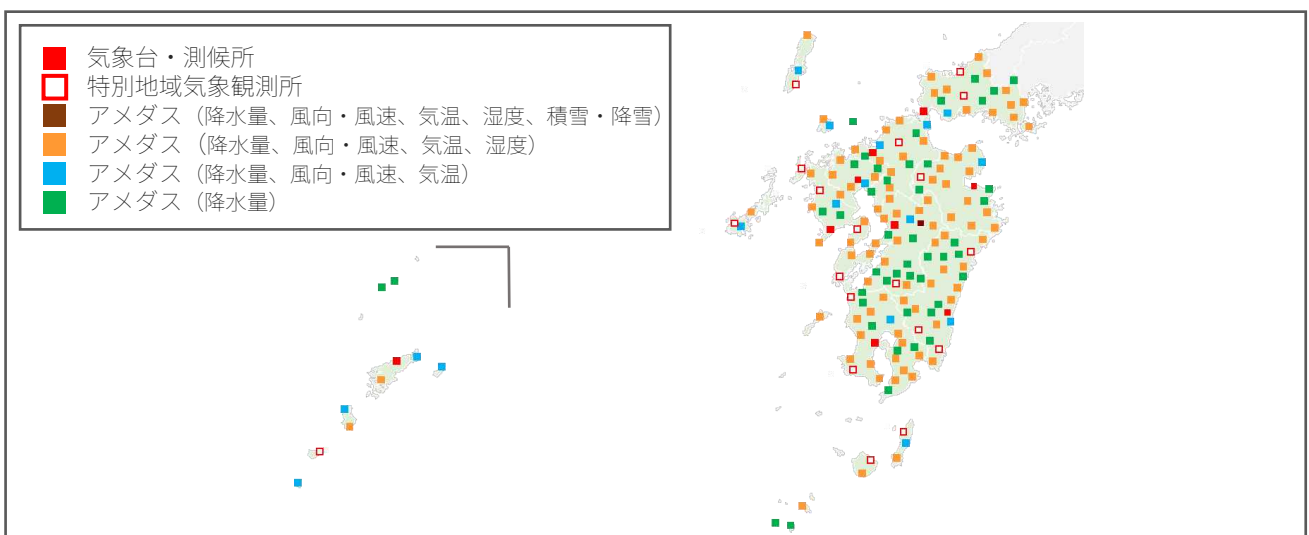
■天気予報の“もと”となる気象観測

福岡管区気象台では、九州・山口県の各地方気象台、名瀬測候所（奄美大島にあります）および気象庁本庁と連携し、九州・山口県内の気象観測施設の運用・維持管理を行っています。身近なものでは、アメダス（地域気象観測所）をはじめ、計183か所の気象観測施設があり、気圧、気温、湿度、風向・風速、降水量などを自動で観測しています。

しかし、気象観測はこれだけではありません。



福岡管区気象台の気象観測施設



九州・山口県の気象台・測候所、アメダスなど

気象庁では全国20か所に気象レーダーを設置して、日本全域の雨や雪などの分布や強さなど降水の状況を観測しています。そのうち3つが福岡、種子島、名瀬にあり、山口県

を含む九州全域をカバーしています。

また、上空の大気の状態を把握するために、福岡、鹿児島、名瀬では高層気象観測を行っており、GPSを搭載したラジオゾンデという観測機器を気球（ゴム製の風船）に取り付け、通常1日2回、上空約30kmまでの気圧、気温、湿度、風向・風速を観測しています。

さらに、厳原、平戸、熊本、大分、延岡、市来、屋久島、名瀬の8か所では、電波を利用したウィンドプロファイラという観測装置を使って、上空の風向・風速を自動で観測しています。



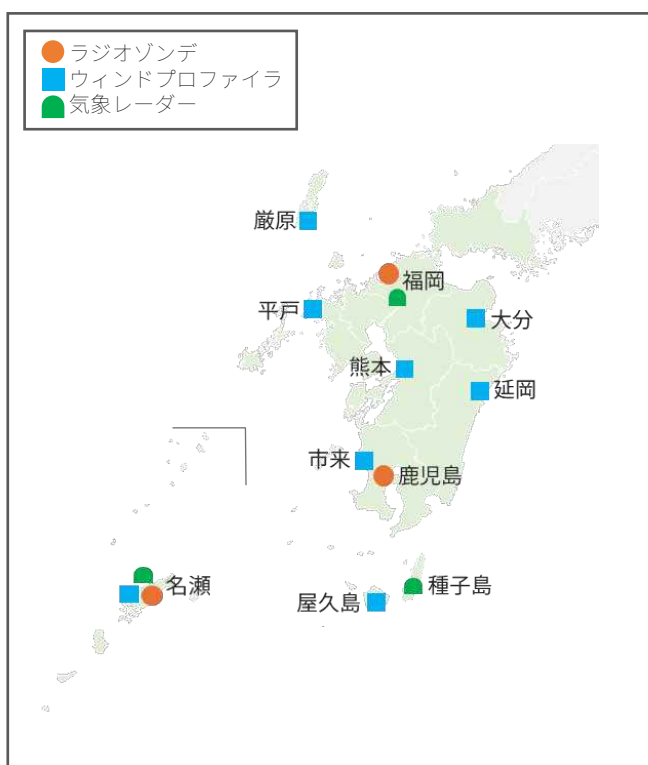
気象レーダー



高層気象観測自動放球装置



ウィンドプロファイラ



九州・山口県の高層気象観測・気象レーダー・
ウィンドプロファイラ

気象庁・気象台による観測の結果（観測データ）は、気象庁ホームページでご覧になれます。

アメダス
（最新の気象データ）



気象レーダー
（雨雲の動き）



■高波・高潮、津波などを監視する“海”の観測

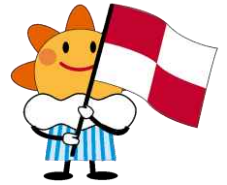
海に囲まれた日本においては海の観測も重要です。長崎県の生月島と鹿児島県の屋久島では、電波を利用したレーダー式沿岸波浪計で波の高さなどの自動観測を行っています。また12か所（大浦、長崎、口之津、対馬比田勝、福江、佐伯、苓北、油津、鹿児島、枕崎、種子島、奄美）では、電波を利用して海面の水位を測る電波式津波観測計で潮位の自動観測を行っています。この潮位データは高潮や津波の監視に活用しています。



津波観測装置



沿岸波浪計



このように現在は、従来の人の目による目視観測に代わり、機器による自動観測が主流となっています。福岡管区气象台では、これらの観測機器・装置の保守点検、故障時の復旧、更新整備、観測環境の保全、観測データの品質管理などを通じて、天気予報や防災気象情報の基礎となる気象観測の精度や信頼性を維持するよう日々努めています。



観測機器・装置の保守点検の様子

一方で、地球温暖化など気候変動の監視のため、さくらの開花のほか、いちょうの黄葉やかえでの紅葉など、季節の推移を代表する植物の目視観測も行っています。



福岡管区气象台で植物の目視観測に用いている气象台敷地内の“標本木”

左:さくら(そめいよしの)、中:いちょう、右:いろはかえで

次回の発行は2025年9月（8月はお休み）の予定です。次号では福岡管区气象台の『地震』の仕事をご紹介します。お楽しみに！

ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区气象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichosa@met.kishou.go.jp



2025年、気象業務は150周年を迎えました

次回の発行は2025年9月の予定です。